

IV-30

盛岡市における都心循環バス利用に関する意識調査

岩手大学 正 員 岩佐 正章
岩手大学○学生員 赤間 文孝
岩手大学 正 員 安藤 昭

1. 研究の目的

「でんでんむし号」は平成11年5月～9月と同年12月～平成12年2月まで試験運行され、道路交通の渋滞および郊外店舗の出店による中心市街地の空洞化などの社会問題を解決するための手段として期待されている。しかし「でんでんむし号」は現在試験運行の段階であり、正式事業化までには運行間隔など様々な改善を要する。そこで本研究では「でんでんむし号」の利用者に対してアンケート調査および乗降客数・走行時刻調査を行い、その結果から今後の課題を抽出することを目的とする。

2. 研究方法

1) 実体調査について

(i) 調査方法

「でんでんむし号」の利用実態を知るために、計測による利用者のバス停別・周回別の乗降客数および各バス停までの所要時間の調査を盛岡市と合同で行った。調査実施日は盛岡市は平成11年12月16日、本調査では平成11年12月19日である。

2) アンケート調査について

(i) 調査対象

調査対象者は、「でんでんむし号」の利用状況を知るために、「でんでんむし号」乗車者とする。

(ii) 調査方法

「でんでんむし号」の利用状況を知るために、調査者が実際にバスに乗り込み、利用者にアンケート調査票を配り、郵送によって回収する郵便調査法を用いた。調査実施期間は平成11年12月19日～平成11年12月31日である。

表-1 調査票配布、回収一覧

配布票数	回収総数	有効回答数	有効回収率
600通	316通	314通	52.3%

(iii) アンケート調査票の内容

調査票は3つの設問から成り立っている。設問の主な内容以下の通りである。

1) フェイスシート

性別、年齢、職業、住所、運転免許証の有無

2) 「でんでんむし号」の利用に関する質問

前回利用の有無、主な利用目的、乗降したバス停、待ち時間、乗り継ぎについてなど

3) 「でんでんむし号」の評価に関する質問

運行ルート、運行間隔、バス車両本体の高齢者・身障者への配慮、運賃、左右両回り運行についてなど

3. 調査結果および考察

1) 実態調査について

(i) 乗降客数調査

1日の平均乗降客数を見ると、右回りでは、盛岡駅前、乗車客数208人、降車客数328人、バスセンター中三前、乗車客数245人、降車客数88人、菜園川徳前、乗車客数152人、降車客数108人となった。3停留所の乗降客数は全乗降客数846人に対して、乗車客数605人で71.5%、降車客数525人で62.1%と高い割合を示している。

同様に左回りでは、盛岡駅前、乗車客数310人、降車客数71人、バスセンター中三前、乗車客数11人、降車客数150人、菜園川徳前、乗車客数57人、降車客数104人となった。3停留所の乗降客数は全乗降客数518人に対して、乗車客数379人で73.2%、降車客数325人で62.7%と高い割合を示している。傾向としては、右回りでは、バスセンター中三前、菜園川徳前で乗車し、盛岡駅前で降車するパターンが目立ち、左回りでは、盛岡駅前で乗車し、菜園川徳前、バスセンター中三前で降車するパターンが目立っている。

利用者の特に多い盛岡駅前、バスセンター中三前、菜園川徳前について左右回りの周回別の乗降客数を見ると、右回りは図-1～3に示すように、各バス停とも6周目以降（12時以降）に利用者が増えている。左回りは図-4～6に示すように、午前中の利用者が多い。両回りについてのグラフから、利用者は午前中に左回りのバスに乗車し、バスセンター中三前および菜園川徳前で降車、午後2～3時頃に目的を果たしバスセンター中三前および菜園川徳前から右回りのバスに乗車し盛岡駅前で降車する傾向にあると言える。

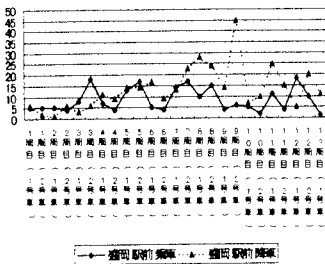


図-1 右回り 12/19 盛岡駅前

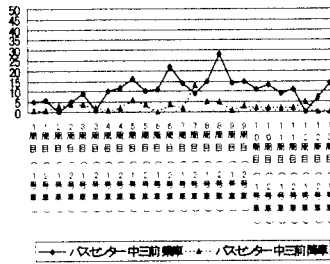


図-2 右回り 12/19 中三前

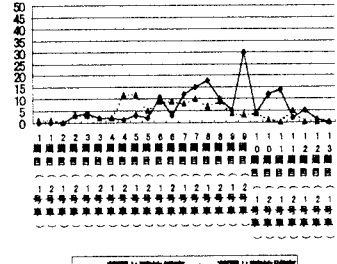


図-3 右回り 12/19 川徳前

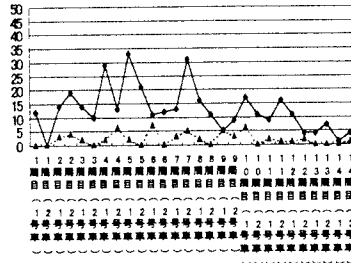


図-4 左回り 12/19 盛岡駅前

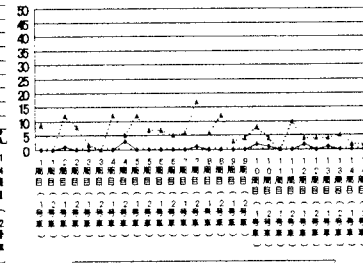


図-5 左回り 12/19 中三前

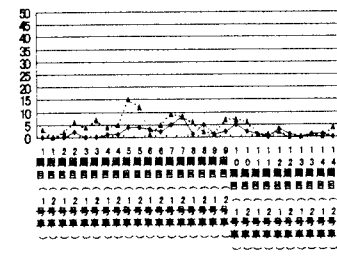


図-6 左回り 12/19 川徳前

(ii) 各バス停までの所要時間の調査

平成11年12月19日の計測結果から、右回りでは、内丸から菜園川徳前の区間で午後特に運行に時間がかかっている。これは川徳への車での利用者が多いために起る渋滞によるものである。左回りでは概ねどの時間帯でも大幅な遅れもなく運行されている。

2) アンケート調査について

以下に示す3点の評価について「非常に満足している」と「やや満足している」と評価した人を「満足している」と表すと、全体に対する満足の割合は次のようになった。

(i) バス運行内容について

表-2に示すように、「現在設定されている運行ルート」は、85.4%(268人)、「バス停間隔」は、87.3%(274人)、「左右両回り運行」は、88.2%(277人)となった。以上3項目について85～88%と満足度が非常に高いものとなった。それに反して、「20分の運行間隔」は、55.7%(175人)と他項目より約30～33%低くなっている。

表-2 バス運行内容についての評価 (人)

バス運行内容 に対して	非常に 満足である	やや 満足である	どちらとも いえない	やや 不満である	非常に 不満である
運行ルート	87 (27.7)	181 (57.6)	28 (8.9)	18 (5.7)	0 (0.0)
バス停間隔	92 (29.3)	182 (56.0)	35 (11.1)	5 (1.6)	0 (0.0)
20分の運行間隔	52 (16.6)	123 (38.2)	54 (17.2)	69 (22.0)	16 (5.1)
左右両回り運行	151 (48.1)	126 (40.1)	29 (9.2)	7 (2.2)	1 (0.3)

() 内構成比 (%)

(ii) 料金・サービスについて

表-3に示すように、「バスカードによる支払い方法」は、78.0%(245人)、「100円均一(ワンコイン)の運賃」は、97.4%(306人)、「運転手の態度」は、88.2

% (277人)となった。以上3項目について満足度は非常に高いものとなった。

表-3 料金・サービスについての評価 (人)

料金・サービス に対して	非常に 満足である	やや 満足である	どちらとも いえない	やや 不満である	非常に 不満である
バスカード	135 (43.0)	110 (35.0)	65 (20.7)	3 (1.0)	1 (0.3)
大人100円の運賃	250 (79.6)	56 (17.8)	3 (1.0)	3 (1.0)	2 (0.6)
運転手の対応	87 (27.7)	146 (46.5)	65 (20.7)	11 (3.5)	5 (1.6)

() 内構成比 (%)

(iii) バス車両本体について

表-4に示すように、「乗車中のバスの乗り心地」は76.1%(234人)、「デザイン」は、71.0%(223人)となった。以上2項目については右回りに低床バスが導入されたことによって満足度は高いものとなった。しかし「高齢者・身障者に対する評価」は、46.5%(146人)と左回りにはまだ低床バスが導入されていないため、満足度は低いものとなった。

表-4 バス車両本体についての評価 (人)

バス車両本体 に対して	非常に 満足である	やや 満足である	どちらとも いえない	やや 不満である	非常に 不満である
乗車中のバスの乗り心地	93 (29.6)	146 (46.5)	51 (16.2)	20 (6.3)	4 (1.3)
高齢者・身障者の乗降	44 (14.0)	102 (32.5)	128 (40.8)	36 (11.5)	4 (1.3)
バス車両本体のデザイン	91 (29.0)	132 (42.0)	70 (22.3)	16 (5.1)	5 (1.6)

() 内構成比 (%)

4. まとめ

今回のアンケート調査から、「でんでんむし号」の運行内容およびバス車両本体に対する評価に関しては満足度が高かったが、定時制が確保できない場合があり、正式事業化のためには定時制の確保が重要な課題となる。特に右回り運行時の菜園川徳前での運行時間の乱れが著しいことから、バスを優先的に通すなどの対策が必要である。